

米国 CDC の妊娠中または授乳中の人のための COVID-19 ワクチンに関する勧告の和訳

原文は

<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/vaccines/recommendations/pregnancy.html>

妊娠中または授乳中の人のための COVID-19 ワクチンに関する考慮事項

2021 年 1 月 7 日更新

妊娠中の人のための COVID-19 ワクチン接種の考慮事項

CDC と CDC からは独立した組織である予防接種実施諮問委員会（Advisory Committee on Immunization Practices: ACIP）は、妊娠中の人や COVID-19 ワクチンを接種するかどうかを決めることを支援するための情報を提供しています。現時点では、ACIP は、COVID-19 ワクチン接種プログラムの最初の数か月間に、特定のグループ（たとえば、医療従事者、およびその他の最前線のエッセンシャルワーカー）にワクチン接種を提供することを推奨しています。COVID-19 ワクチンの接種を推奨されているグループの一員で妊娠している人は、ワクチン接種を選択することができます。予防接種を受けることについて疑問がある場合は、医療担当者と話し合うことが情報に基づいて決断するのに役立つでしょう。

妊娠中の人には COVID-19 による重篤化のリスクが高くなります

観察されたデータでは、頻度は低いものの、妊娠中の人や、妊娠していない生殖年齢世代の女性と比較すると、COVID-19 に感染した際、ICU 入室、人工呼吸管理、および死亡を含む重篤化のリスクが高いことを示しています。さらに、COVID-19 に罹患した妊婦は、COVID-19 にかかっていない妊婦と比較して、早産などの有害な妊娠転帰のリスクが高い可能性があります。

妊娠中の人に対する COVID-19 ワクチンの安全性に関するデータは限られています

臨床試験や追加の研究から結果が得られるまで、妊娠中に投与された mRNA ワクチンを含む COVID-19 ワクチンの安全性に関するデータは限られています。

- 現在、動物の発生および生殖毒性試験から入手できるデータは限られています。妊娠前または妊娠中にモデルナ社の COVID-19 ワクチンを接種したラットでは、安全上の懸念は示されませんでした。ファイザー社と BioNTech 社のワクチンの研究が進行中です。
- 妊娠中の方を対象とした研究を予定しています。
- 両方のワクチンメーカーは、臨床試験の対象の中で妊娠した人々をモニターしています。

CDC と米国食品医薬品局 (the Food and Drug Administration: FDA) は、妊娠中のワクチン接種に関する情報を収集するための安全監視システムを導入しており、レポートを注意深く監視します。

mRNA ワクチンには、COVID-19 を引き起こす生ウイルスが含まれていないため、人に COVID-19 を起こすことはありません。さらに、mRNA は細胞の核に入らないため、mRNA ワクチンは人の DNA と相互作用を起こしません。細胞は mRNA を素早く分解します。専門家は、mRNA ワクチンの作用機序に基づいて、妊娠中の人々に特定のリスクをもたらす可能性は低いと考えています。しかし、妊婦での研究がないため、妊婦とその胎児に対する mRNA ワクチンの実際のリスクは不明です。

現在ワクチンの供給が限られているため、CDC は COVID-19 ワクチンの最初の接種を受けることを特定のグループに推奨しています

現時点では、COVID-19 および重症の COVID-19 疾患を引き起こすウイルスに晒されるリスクが高い特定のグループが最初にワクチンを接種することを推奨しています。

CDC が COVID-19 ワクチン接種の推奨事項をどのように作成しているかについて、ワクチンの供給が限られている場合の推奨事項を含め、他の項の詳細をご覧ください。

予防接種を受けることは妊娠している人にとって個人的な選択です

妊娠している医療従事者など、COVID-19 ワクチンの接種を推奨されているグループの一員である人は、ワクチン接種を選択するかもしれません。緊急使用許可 (Emergency Use Authorization: EUA) の下で使用が許可されているワクチンを接種するかどうかを決めるために妊婦がその担当医と話すことは、役立つでしょう。医療提供者と話すことは役立つかもしれませんが、予防接種の前に必須というわけではありません。

妊娠中の患者が医療提供者と話し合う重要な考慮事項は次のとおりです。

- COVID-19 を引き起こすウイルスである SARS-CoV-2 への曝露の可能性
- 妊婦に対する COVID-19 のリスクとその胎児に対する潜在的なリスク
- ワクチンについて知られていること：体内の免疫を促進させるためにどのようにうまく機能するか、ワクチンの既知の副作用、妊娠中のデータの欠如

ワクチン接種を受けることを決断した妊娠中の患者は、ワクチン接種後でも COVID-19 の蔓延を防ぐために、下記に示す現在のガイドラインに引き続き従う必要があります。

- マスクを着用する
- 人との距離を少なくとも 6 フィート (約 180 cm) は保つ
- 混雑を避ける
- 石鹸と水で 20 秒間手を洗うか、60%以上のアルコールを含む手指消毒剤を使用する
- CDC の旅行ガイダンスに従う

- COVID-19 に接触した後の隔離ガイダンスに従う
- 職場の該当するガイダンスに従う

ワクチンの副作用

副作用は、現在接種可能な 2 種類の COVID-19 ワクチンのいずれかを接種した後、特に 2 回目の接種後に発生する可能性があります。これらの副作用は、妊娠中の人と妊娠していない人で違いはないと推測されます。ワクチン接種後に発熱した妊婦は、発熱が妊娠の有害な結果と関連しているため、アセトアミノフェンを服用するように助言される場合があります。アセトアミノフェンは、妊婦の他のワクチン接種後の症状に対しても処方されることがあります。

ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こす人もいます。CDC は、妊娠中の人を含めてすべてのワクチン接種を受ける人に、他のワクチンや注射薬剤（筋肉内、静脈内、皮下など）に対する重度のアレルギー反応（アナフィラキシーなど）の病歴がある場合には、医療者に相談することを推奨しています。重度のアレルギー反応を発症する未知のリスクとワクチン接種の利点を話し合うときには、これらの情報は重要な考慮事項です。

妊娠検査薬と妊娠

COVID-19 のワクチンの接種前に妊娠検査薬で検査することは推奨されていません。妊娠しようとしている女性は、mRNA COVID-19 ワクチンを受けた後に妊娠を避ける必要はありません。

母乳育児をしている人の COVID-19 ワクチン接種の考慮事項

授乳中の女性における COVID-19 ワクチンの安全性、または母乳で育てられた乳児または乳汁の産生/排泄に対する mRNA ワクチンの影響に関するデータはありません。mRNA ワクチンは、授乳中の乳児にとってリスクとは考えられていません。母乳育児をしていて、医療従事者など、COVID-19 ワクチンの接種を推奨されているグループの一員である人々は、ワクチン接種を選択することができます。